

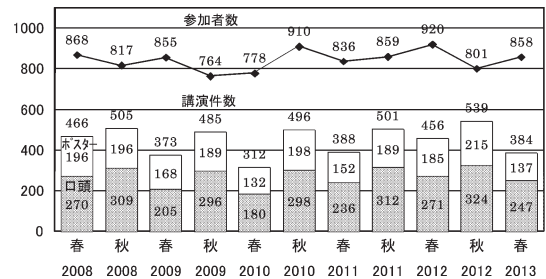
2013年度春季大会の報告

2013年度春季大会は、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）を会場として2013年5月15日（水）～18日（土）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は858名で、これまでの春季大会と同程度であった（第1図）。

2日目午後には、同センター大ホールにおいて総会が開かれ、黒田友二・向川 均両氏と竹村俊彦氏に日本気象学会賞が、宮原三郎氏と近藤 豊氏に藤原賞がそれぞれ授与された。総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場において大会シンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」が開催され、6件の基調講演と総合討論が行われた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する9件の専門分科会が行われた。一般講演の発表件数は298件（内訳はポスターが137件、口頭発表が161件）、分科会は86件で計384件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会・メソ気象研究連絡会による公開気象講演会「将来の再生



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演申込み件数（口頭、ポスター）。

可能エネルギーと気象」を含め、個別のテーマによる7件の講演会や研究連絡会も開かれた。

今大会では東京大学大気海洋研究所の皆様が大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに、ボランティアとして大会運営にご協力頂きました。また、公開気象講演会のオンライン事前登録システム構築にあたり、電子情報委員会にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2013年6月 講演企画委員会